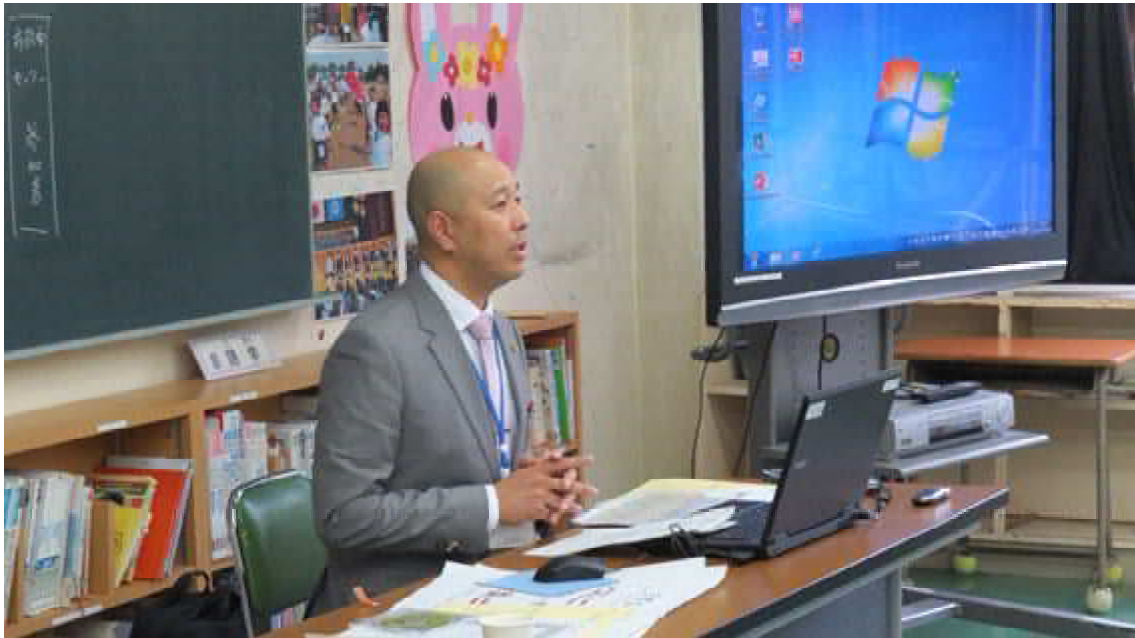


29年度 見附市教育センター 第2回 4時から夢塾



日時：平成29年5月26日(金)14:55～16:45

会場：見附市立名木野小学校 図書室

テーマ：「小学校6年生英語（授業改善）」

「小学校の英語授業」について、提案授業と講義を行いました。
提案授業では、3つの提案（①「文字に慣れ親しむ活動（生きて働く知識・技能に関して）」②「場面設定の工夫（思考力・判断力・表現力等に関して）」③「見通しと振り返り（学びに向かう力に関して）」）を基に授業を行いました。講義では「主体的・対話的で深い学びを実現する小学校の外国語の授業とは」をテーマに、どのように進めていくのかを学びました。

講師：神子 尚彦 様(県立教育センター指導主事)



(1) 提案授業 (6年1組)

本時で行った言語活動は「自己紹介」でした。決して難しくない、シンプルな活動でしたが、新学習指導要領を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して行われました。子どもたちは、とても楽しく英語の学習ができた満足していました。

(2) 講義

◎本時の提案授業の説明

①「文字に慣れ親しむ活動 (生きて働く知識・技能に関して)」

場面設定の工夫で文字を使う必然性をもたせませんが、本時は英語を書けるようにすることを目標としません。したがって、大文字、小文字、ピリオド、アポストロフィなどの指導はしません。児童が楽しんで文字に慣れることを大切にしました。

②「場面設定の工夫 (思考力・判断力・表現力等に関して)」

新学習指導要領には「コミュニケーションを行う目的と場面、状況に応じて・・・」という言葉が多用されています。児童が場面や状況等を意識しながらコミュニケーションできることを目指しました。

<場面：アニメの祭典 ゴール：日本文化を代表するアニメの素晴らしさを伝える親善大使として①名刺を作る。②名刺を交換しながら英語で自己紹介できる！>

③「見通しと振り返り (学びに向かう力に関して)」

授業は Presentation, Practice, Production (P,P,P) という日本の英語教育で一般的に行われている流れで展開しました。その中で目標の達成に向け、ルーブリックを用いながら見通しと振り返りができるように考えました。

◎主体的・対話的で深い学びの実現

<資質・能力を育成する学びの家庭についての考え方>

児童生徒が、

- (ア) 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況を理解する。
- (イ) 目的に応じて情報や意見などを発信するまで方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- (ウ) 対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- (エ) 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。
⇒主体的・対話的で深い学びの視点でデザインする。

<参加者の声>

○外国語における授業の作り方がとてもよく分かりました。子どもたちが幸せな人生を送るために、コミュニケーション能力はとても大切です。学級集団をまず鍛え、その豊かな人間関係の中で、確かな学力をしっかりと付けていきたいと感じました。

○今日の学習のねらい、活動の流れ、場面設定など、短い時間で子どもたちに理解させる、その手法はとても参考になりました。聞く、読む、話す、書く活動がとてもバランスよく仕組みられていて、子どもたちが飽きずに楽しく進んで学習しているように感じました。